埼玉医療センター

呼吸器外科

講座のアピールポイント

呼吸器外科では、肺がんに対して、胸腔鏡下肺葉切除術を基本術式として、安全で確実な低侵襲手術を実施・展開・研究しています。従来から、小開胸からの直視下操作と胸腔鏡を併用した胸腔鏡補助下切除術（ハイブリッド VATS）と胸壁に 3-4 か所の孔を設けて胸腔鏡と手術器具を挿入して手術を行う完全胸腔鏡下手術（CVATS）を施行していましたが、2019 年 4 月から胸腔鏡と手術器具を３D 画像で確認してロボット操作を介して行うダビンチ手術（RATS）を導入しました。更に昨年からは、3-4ｃｍの 1 か所の切開のみから胸腔鏡と手術器具を挿入して手術を行う単孔式胸腔鏡手術（Uniport VATS）も開始しています。経験を積み重ねて、それぞれの手術手法の利点と欠点を調べて、より良い手術手法の開発・改良を行っています。

局所進行肺がんに対しては、局所進行肺がんに対しては、術前療法（化学・放射線療法）、気管気管支形成術により機能障害を残す肺全摘術を可及的に回避するように努めています。最近は免疫療法の進歩に伴い、化学・放射線・免疫療法後に切除を行うサルベージ手術も検討しています。

最新の手術手法を積極的に取り入れて、より低侵襲で確実な手術を目指して研究しています。

講座研究紹介

呼吸器外科では、従来から NCD 登録施設として呼吸器外科手術に関して複数の多施設共同研究に参加して来ました。本年は、肺癌登録合同委員会が行う第 11 次事業「20021 年に外科治療を施行された肺癌症例のデータベース研究」に参加しています。

術後 5 年間経過観察を行い集計解析することにより、肺がんの分類、取扱い規約の改訂、日本全体の最新の成績が明らかとなります。現在利用されているのは 2011 年の手術症例の成績なので、最新の結果が出ると治療方針の判断指標となる大変意義のある研究です。